

平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年2月7日

上場会社名 株式会社うかい
 コード番号 7621 URL <http://www.ukai.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大工原 正伸
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 潮 一生
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 042-666-3333

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	9,368	3.7	546	12.0	501	22.0	273	25.0
25年3月期第3四半期	9,030	0.0	488	△30.7	411	△33.4	218	△26.5

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	57.84	57.61
25年3月期第3四半期	44.39	44.23

(注) 1株当たり四半期純利益金額を算定するための普通株式の期中平均株式数について、「従業員持株ESOP信託」が所有する当社株式の数を控除しています。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	11,507		3,545			30.5
25年3月期	11,874		4,033			33.7

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 3,510百万円 25年3月期 3,998百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	12.00	12.00
26年3月期	—	2.00	—		
26年3月期(予想)				10.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,964	2.4	469	23.5	363	70.6	317	85.2	67.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	5,229,940 株	25年3月期	5,229,940 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	647,350 株	25年3月期	293,156 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	4,726,412 株	25年3月期3Q	4,925,090 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) セグメント情報等	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、政府の金融政策や経済政策の効果を背景に、株価の上昇や円安による輸出環境の改善、設備投資の増加など、緩やかな回復基調が続いております。しかしながら、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクは依然として存在しており、先行きは不透明な状況となっております。

外食産業におきましても、個人消費は雇用・所得環境が改善し、増加の基調が見られるものの、物価上昇・消費税率引上げ・電力などのエネルギーコストの上昇などの不安材料により、生活防衛意識や節約志向が続いており、当社を取り巻く環境もまた不透明な状況で推移しております。

このような経営環境のなか、未来への成長を見据え、3つの成長方針、『人に優しい店づくり～既存店の強化～』『うかいの余韻をご家庭に～新商品開発～』『商圈1万キロ～新市場開拓～』を掲げ、まずは当期を「計画の年」として各施策に取り組んでおります。

既存店の強化の取り組みとしては、お客様の利便性を考慮し、店舗の一部バリアフリー化や食事をとする環境の整備などを継続して実行しております。また重要課題である将来を担う人材の確保と育成も引き続き推進しております。

新商品開発の取り組みとしては、平成25年7月に製菓工房の一部に、うかいグループによる初めての洋菓子店「アトリエうかい」をオープンし、洋食店舗のお土産品の強化と共に製菓としてのブランド力の向上を図っております。

新市場開拓の取り組みとしては、同年6月に御盟晶英酒店股份有限公司との間で、台湾高雄市に同社が建設するF I Hリージェントグループ「高雄晶英酒店」内のレストランのコンサルティング契約を締結し、うかい海外初出店の準備を進めております。

また同年9月には、(仮称)「銀座kappou ukai」を、東京都中央区銀座に新規出店することを決定いたしました。新業態となるこの新店は、うかい独自の美味方丈の世界を「現代 数寄屋づくりの粋な空間」で店舗として再現し、世界の厳選された食材を和洋の美味に凝縮させて表現する「うかいの新たな割烹料理」です。料理・おもてなし・独自の店づくりが三位一体となったうかいの新業態を世界に向けて発信すべく、平成26年4月のオープンに向け、着実に店づくりを進めております。

当第3四半期累計期間の業績面につきましては、売上高9,368百万円(前年同四半期比3.7%増)の増収となりました。利益面につきましては、営業利益546百万円(同12.0%増)、経常利益501百万円(同22.0%増)、四半期純利益273百万円(同25.0%増)となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

〔飲食事業〕

飲食事業では、いつ来ても満足し、また新たな発見をしていただけるよう、歴史のあるうかい鳥山の蛸狩りやあざみ野うかい亭の薔薇の回廊、ワインなど飲料にまつわるフェア、季節の食材を使った特別料理などを展開し、お客様の来店機会の増加を図ってまいりました。

和食事業は、首都圏中央連絡自動車道の高尾山インターチェンジが開通したことにより、うかい鳥山・うかい竹亭の商圏が広がり、集客が図れたこと、また東京芝とうふ屋うかいが順調に推移したことが寄与し、売上高4,389百万円(同2.8%増)となりました。

洋食事業は、全店舗で来客数が増加し、なかでも八王子うかい亭と都心店の銀座うかい亭、表参道うかい亭、グリルうかい丸の内店が好調に推移したことにより、売上高3,989百万円(同6.7%増)となりました。

この結果、飲食事業としては売上高8,379百万円(同4.6%増)となりました。

〔文化事業〕

文化事業では、特別企画展をはじめとする様々な企画や催事を行い、多くのお客様にご来館いただけるようプロモーションの強化を行ってまいりましたが、第2四半期までの来館者数の減少により、売上高988百万円(同3.4%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ367百万円減少し、11,507百万円となりました。主な要因は現金及び預金の減少57百万円、商品及び製品の増加36百万円、原材料及び貯蔵品の増加24百万円、有形固定資産の減少248百万円、敷金・保証金の増加29百万円、繰延税金資産の減少179百万円等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ120百万円増加し、7,962百万円となりました。主な要因は、有利子負債の増加150百万円、買掛金の増加84百万円、賞与引当金の減少71百万円、未払金の減少70百万円等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ488百万円減少し、3,545百万円となりました。主な要因は四半期純利益273百万円、剰余金の配当による減少68百万円、自己株式取得による減少723百万円等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の通期業績につきましては、平成25年11月8日付の「平成26年3月期 第2四半期決算短信」並びに「平成26年3月期第2四半期累計期間の業績予想値との差異並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ」において公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	559,850	502,595
売掛金	401,594	406,081
商品及び製品	145,139	181,952
原材料及び貯蔵品	244,071	268,829
繰延税金資産	81,527	34,577
その他	142,892	167,774
貸倒引当金	△362	△366
流動資産合計	1,574,713	1,561,444
固定資産		
有形固定資産		
建物	9,114,394	9,155,803
減価償却累計額	△4,785,320	△5,004,164
建物(純額)	4,329,074	4,151,638
土地	2,400,400	2,400,400
建設仮勘定	10,367	10,849
美術骨董品	1,078,721	1,084,174
その他	3,324,740	3,371,707
減価償却累計額	△2,523,138	△2,646,608
その他(純額)	801,601	725,098
有形固定資産合計	8,620,165	8,372,161
無形固定資産		
投資その他の資産	109,554	90,764
投資有価証券	32,707	40,048
繰延税金資産	366,645	234,174
敷金及び保証金	986,766	1,016,170
その他	184,097	192,445
投資その他の資産合計	1,570,216	1,482,838
固定資産合計	10,299,936	9,945,764
資産合計	11,874,650	11,507,209

(単位:千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	272,326	356,877
1年内返済予定の長期借入金	686,000	773,600
未払法人税等	56,587	33,939
賞与引当金	95,003	23,862
その他	800,365	775,237
流動負債合計	1,910,283	1,963,518
固定負債		
長期借入金	4,676,000	4,761,000
退職給付引当金	724,477	742,072
資産除去債務	116,786	118,749
その他	413,712	376,868
固定負債合計	5,930,977	5,998,689
負債合計	7,841,260	7,962,207
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,291,007	1,291,007
資本剰余金	1,836,412	1,836,412
利益剰余金	1,400,523	1,602,972
自己株式	△538,875	△1,234,590
株主資本合計	3,989,067	3,495,801
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	9,631	14,509
評価・換算差額等合計	9,631	14,509
新株予約権	34,691	34,691
純資産合計	4,033,389	3,545,001
負債純資産合計	11,874,650	11,507,209

(2) 四半期損益計算書
第3四半期累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	9,030,951	9,368,144
売上原価	4,137,393	4,267,204
売上総利益	4,893,558	5,100,939
販売費及び一般管理費		
販売促進費	252,038	280,875
役員報酬	147,065	157,755
給料及び手当	1,523,699	1,593,691
賞与引当金繰入額	12,617	14,192
退職給付費用	40,597	48,414
福利厚生費	239,340	257,712
水道光熱費	160,013	182,834
消耗品費	161,708	151,355
修繕費	139,478	133,552
衛生費	155,304	159,694
租税公課	81,453	80,284
賃借料	521,732	528,622
減価償却費	291,094	281,979
その他	679,233	683,215
販売費及び一般管理費合計	4,405,376	4,554,181
営業利益	488,181	546,758
営業外収益		
受取利息	3,816	3,827
受取配当金	564	648
受取手数料	3,300	7,565
その他	7,306	2,354
営業外収益合計	14,986	14,396
営業外費用		
支払利息	74,917	49,224
社債利息	5,555	—
社債発行費	2,992	—
その他	8,140	9,977
営業外費用合計	91,605	59,202
経常利益	411,562	501,951
特別利益		
固定資産売却益	—	19
特別利益合計	—	19
特別損失		
固定資産除却損	8,090	4,510
特別損失合計	8,090	4,510
税引前四半期純利益	403,472	497,461
法人税、住民税及び事業税	42,338	47,132
法人税等調整額	142,487	176,958
法人税等合計	184,825	224,090
四半期純利益	218,646	273,371

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額(注)2
	飲食事業	文化事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,007,688	1,023,263	9,030,951	—	9,030,951
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	8,007,688	1,023,263	9,030,951	—	9,030,951
セグメント利益	999,790	149,153	1,148,943	△660,761	488,181

(注)1. セグメント利益の調整額△660,761千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額(注)2
	飲食事業	文化事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,379,619	988,524	9,368,144	—	9,368,144
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	8,379,619	988,524	9,368,144	—	9,368,144
セグメント利益	1,116,071	105,292	1,221,364	△674,606	546,758

(注)1. セグメント利益の調整額△674,606千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、自己株式の取得について平成25年6月24日開催の第31回定時株主総会において承認可決され、また同日開催の取締役会で決議し、平成25年7月23日付で369,134株を取得いたしました。この自己株式の取得等により、自己株式が704,868千円増加し、当第3四半期会計期間末において自己株式が1,234,590千円となっております。